

42 章 まことのしもべと、不信のしもべ

40 章において、「慰めよ」に始まるメッセージの序曲は、全能の神によるシオンの救いという主題へと発展したが、41 章では、全能の神が歴史の舞台にご自分のしもべを登場させられた。それは、アブラハムのもあり、クロスのもあり、またイスラエルの民でもあったが、強調点は、しもべにはなく、しもべを選び遣わされる神ご自身にあった。42 章も 41 章の流れの上に置かれているが、有名な四つの「しもべの歌」の第一が 42 : 1 - 9 である。しかし、40 章以下の全体の文脈の流れの中でこれを見なければ、真の意味を汲み取ることはできない。

a . 第一のしもべの歌(42 : 1-9)

第一のしもべの歌の問題点は、まずその区分にある。1-4 節だけがしもべの歌なのか、それとも 5-9 節を含んでいるのか。ドゥームに次いで多くの学者は今日でも、1-4 節だけを第一のしもべの歌とする。「大部分の者の意見は、1-4 節と 5-9 節を切り離された単元として考えるが、自分も賛成である。それは、『主はこう仰せられる』と分詞的關係句(参照 43 : 16 以下)より成る 5 節を新しい段落の初めとするのが一番自然だからである」(ノース)。ノースの意見に対しては、導入句が必ずしも段落の初めになるとは言えないことを指摘しておかなければならない(45 : 1)。

更に、問題点は、5-9 節の困難性の中にも見られる。「42:5-9 が一単元であるということについては、一般的な同意がある。しかし、どのようにこの節を分けるかについて、批評家たちの意見は様々に分かれている。本当の説明がだれにもできていない難しい単元の一つである。難しさの理由は、文の構造が明白でないことである。明らかなのは、語り手がヤハウエであるということだけである。6 節において、召しのようなことばを発している。7 節では、どのような目的に役立つのかが述べられている。しかし、主が召す人はだれか、また召された人はだれに対して働きかけるのか、また、その働きの性質はあいまいである。注解者たちは、この託宣がしもべに向けて語られているかどうかについて、意見を異にしている(しもべという用語は 5-9 節に言われていないし、また、普通考えられている 42 : 1-4 の『しもべ』と、6 節で語りかけられている人物が同一であるとの十分な証拠はない)。彼はイスラエルなのか。クロスなのか。そこで、ここに召されている人物の働きについても意見が異なっている」(ヴェスターマン)。

このように、区分についての批評家たちの意見がばらばらである上に、しもべの内容についても意見がばらばらである。緒論 3c で述べたように、本注解では、42:1-9 もイザヤ書全体の統一性の中で見て、41 章と密接につながっているものとする。それと同時に、この 4 つの歌に描かれるしもべ像においては、他の「しもべ」と違った特徴をも認めようとする。

1節 見よ。わたしのささえるわたしのしもべ、
わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。
わたしは彼の上にわたしの霊を授け、
彼は国々に公義をもたらす。

הֲנֵן עֲבַדֵי אֶת־מֶלֶךְ בּוֹ בְּחִירֵי רִצְתָהּ נִפְשֵׁי נִתְּתִי ^{WTT} Isaiah 42:1

רוּחִי עָלָיו מִשְׁפָּט לְגוֹיִם יוֹצִיא:

<見よ>で始まる。40-41 章の文脈は、神が<見よ>と言われる<しもべ>に焦点が置かれてくる。しかし、それは神が<見よ>と言われるから権威を持ち、また意味を持つことを、忘れてはならない。この<しもべ>の資格は、神が<ささえ>、神が<選び>、神が<喜び>、神が<霊を授ける>ことにある(11:1 以下)。このしもべの働きは、<国々に公義をもたらす>ことである。これは更に、「まことをもって公義をもたらす」(3)、「地に公義を打ち立てる」(4)に発展する。公義(☒ミシュパート) 5:16 注解。

2節 彼は叫ばず、声をあげず、
ちまたにその声を聞かせない。

לֹא יִצְעַק וְלֹא יִשָּׂא וְלֹא יִשְׁמִיעַ בַּחוּץ קוֹלוֹ: ^{WTT} Isaiah 42:2

3節 彼はいたんだ葦を折ることもなく、
くすぶる燈心を消すこともなく、
まことをもって公義をもたらす。

קִנְיָה רִצּוֹן לֹא יִשְׁבֹּר וּפְשֵׁתָהּ כִּהְהָ לֹא ^{WTT} Isaiah 42:3

יִכְבְּנָה לְאַמַּת יוֹצִיא מִשְׁפָּט:

4節 彼は衰えず、くじけない。
ついには、地に公義を打ち立てる。
島々も、そのおしえを待ち望む。

לֹא יִכְהָה וְלֹא יִרְוץ עַד־יָשִׁים בְּאֶרֶץ מִשְׁפָּט ^{WTT} Isaiah 42:4

וּלְתוֹרָתוֹ אַיִם יִיחִילוּ: פ

「しもべ」の働く方法が、7つの否定辞□ローで表される。それは、消極的であり、柔和であって、クロスのような戦勝の王の姿からは非常に隔たっている。<いたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともなく>は、最も弱いものをも傷つけない思いやりのある「しもべ」の姿を描いている。榊原氏は次のように言っている。「それは折らないで放っておくとか、くすぶっているのを消しはしないが放っておくというのではなく、いたんでいるものを立たせ、消えかけている燈心を新たにして、炎をかつと燃やす、積極的なことを言いたいわけです」(『聖書読解術』いのちのことば社、53-54頁)。一方、コーニグは、「しもべ」が葦で字を書き、くすぶる燈心の下で筆記を進めている熱心さを表している、と説明している(『旧約聖書』誌、18号、1968年、159-172頁)。いずれにしても、謙遜で目立たない、しかし不屈の働きにより、全地に<公義>が<打ち立て>られ、全地の人々は<そのおしえ(□トラー)を待ち望む>のである(2:2,3)。

5 節 天を造り出し、これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に霊を授けた神なる主は
こう仰せられる。

כֹּה־אָמַר הָאֱלֹהִים יְהוָה בּוֹרֵא הַשָּׁמַיִם וְנוֹשֵׂיָהֶם ^{WTT} Isaiah 42:5

רַקַּע הָאָרֶץ וַצִּאֲצֵאֶיהָ נָתַן נְשָׁמָה לְעַם עָלֶיהָ וְרוּחַ

לְהִלְכֵם בָּהּ:

<神なる主はこう仰せられる>で始まる。その神なる主は、分詞的關係句によって、このようなお方であると説明される。それは 40-41 章の要約と言えよう。ここに、神の創造主としての全知全能と、人間を創造の冠と定められた救済の真理が明らかにされる。

6 節 「わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、国々の光とする。

אֲנִי יְהוָה קְרָאתִיךָ בְּצַדִּיק וְאַחֲזֶנְךָ בְּיָדִי ^{WTT} Isaiah 42:6

וְאַצְרֶנְךָ וְאַתְנַנֶּנְךָ לְבְרִית עִם לְאוּר גּוֹיִם:

7 節 こうして、見えない目を開き、
囚人を牢獄から、
やみの中に住む者を獄屋から連れ出す。

לְפַקֵּחַ עֵינַיִם עֲוֵרוֹת לְהוֹצִיא מִמִּסְגָּר אֲסִיר ^{WTT} Isaiah 42:7

מִבֵּית כָּלֵא יֵשְׁבֵי חֶשֶׁד:

再び、神がしもべを扱われる方法が述べられる。それは、<召し><握り><見守り>、<民の契約><国々の光>として任命されることである。<義> (ツエデク) 5 : 16 注解。<民>は 5 節のことばが繰り返されているが、同じ意味であるとすれば、「全地の民」という意味である。それはまた<国々>という並行した同義語とも調和する。しかし、<民>を全地の民ととりながら<契約>と結び付けているのは、旧約聖書中ここだけであって、イザヤは全く新しい思想をここに盛り込んでいるといわなければならない。また、「しもべ」自身が「全地の民の契約」となり<国々の光>となることも、新しい思想であって、イスラエル説もクロス説も排除した新しいしもべ像が、ここに浮かんでいると言えよう。7 節では、すでに 9 : 2、29 : 18、35 : 5 において預言されてきたことが、明確にしもべの働きの結果として宣べられる。6 : 9,10 も背景として考えられているかもしれない。

8 節 わたしは主、これがわたしの名。
わたしの栄光を他の者に、
わたしの榮譽を刻んだ像どもに与えはしない。

אֲנִי יְהוָה הוּא שְׁמִי וְכְבוֹדִי לְאַחַר לֹא-אֶתֵּן ^{WTT} Isaiah 42:8

וְתַהֲלֵתִי לַפְּסִילִים:

9 節 先の事は、見よ、すでに起こった。
新しい事を、わたしは告げよう。
それが起こる前に、あなたがたに聞かせよう。」

הַרְאֵשְׁנוֹת הַנְּהַבֹּאוּ וְחַדְשׁוֹת אֲנִי מִנְיָד בְּטָרָם ^{WTT} Isaiah 42:9

תִּצְמַחְנָה אֲשִׁמִּיעַ אֶתְכֶם: פ

<わたし> (アニー) が、8,9 節に用いられている。それによって、41 章以下の文体と思想の連続であることがわかる(41 : 4,13,13,14,17)。<先の事>も<新しい事>も複数である。

<先の事>とは、預言者たちの預言したことで、すでに成就した出来事。<新しい事>とは、人間がまだ経験もせず、予想もしないこと。それはしもべのわざと関係しているから、登場するしもべ像自体が人の思いを全く超えていることが前提とされている。また、それは<刻んだ像>と対比されているから、単に珍しい新奇な出来事というのではなく、偶像と偶像礼拝者を排除し、神に栄光を帰すものである。

b. 主への新しい賛美の歌(42 : 10-17)

前節で「新しい事」について述べられた後、この段落では、自然に、「新しい」賛美の歌を歌うようにとの勧めがなされる。あの出エジプトの偉大な体験をしたイスラエル人がまずしたことは、主に対する賛美であったように、新しいしもべが新しい事をするので、新しい賛美の歌が期待されるのである。

- 10 節 主に向かって新しい歌を歌え、
その栄誉を地の果てから。
海に下る者、そこを渡るすべての者、
島々とそこに住む者よ。

שִׁירוּ לַיהוָה שִׁיר חֲדָשׁ תְּהַלְתּוּ מִקְצֵה הָאָרֶץ ^{WTT} Isaiah 42:10

יִוְרְדוּ הַיָּם וּמְלֹאוּ אַיִם וַיִּשְׁבְּיָהֶם:

- 11 節 荒野とその町々、
ケダル人の住む村々よ。
声をあげよ。
セラに住む者は喜び歌え。
山々の頂から声高らかに叫べ。

יִשְׂאוּ מִדְּבַר וְעָרֵי חֲצֵרִים תִּשְׁבַּב קֶדֶר יִרְנוּ ^{WTT} Isaiah 42:11

יִשְׁבְּי סֹלַע מִרֹאשׁ הַרִים יִצְוּחוּ:

- 12 節 主に栄光を帰し、
島々にその栄誉を告げ知らせよ。

יְשִׂימוּ לַיהוָה כְּבוֹד וּתְהַלְתּוּ בְּאֵיִם יְגִידוּ: ^{WTT} Isaiah 42:12

<新しい>賛美には、単にイスラエル人だけでなく、すべての国の人々が参加するように

と招かれる。<ケダル> 21 : 16 注解。<セラ> 16 : 1 注解。

13 節 主は勇士のようにいで立ち、
戦士のように激しく奮い立ち、
ときのをあげて叫び、
敵に向かって威力を現す。

יְהוָה כְּגִבּוֹר יֵצֵא כְּאִישׁ מִלְחָמוֹת יַעִיר ^{WTT} Isaiah 42:13

קִנְיָהּ יִרְעֶה אֶף-יִצְרִיחַ עַל-אֵיבָיו יתְנַבֵּר: ׀

主に向かって賛美の歌を歌う理由を示す。それは、主ご自身が<勇士>として出陣されるからである。ここには、聖戦の思想が見られる(出 15 : 3、民 10 : 35)。<激しく奮い立ち>には、△キヌアーが用いられているが、これはもともと「嫉妬」を表すことばである(ヨブ 5 : 2、箴 6 : 34、27 : 4)。イザヤはこれを、神がご自分の主権をあらわし、その御旨を遂行される熱心を表現することばとして用いた(9 : 7、26 : 11)。

14 節 わたしは久しく黙っていた。
静かに自分を押さえていた。
今は、子を産む女のようにうめき、
激しい息づかいであえぐ。

הַחֲשִׁיתִי מֵעוֹלָם אַחֲרֵי־שׁ אֶתְאָפֶק כִּי־לִדְהָ ^{WTT} Isaiah 42:14

אֶפְעָה אִשָּׁם וְאִשְׂאֵף יִחַד:

<久しく>は、エルサレム陥落後の数十年間を指すのではなく、約束の地カナンに入ってからイスラエル人が背信の罪を重ねてきた期間を指す。イザヤが「いつまでですか」(6 : 11)と尋ねる前に、神ご自身が<静かに自分を押さえていた>。子を産む女のたとえを神の忍耐に適用する大胆さを、イザヤは持っていた。

15 節 わたしは山や丘を荒らし、
そのすべての青草を枯らし、
川をかwait地とし、
沢をからす。

אַחֲרֵי־ב הָרִים וְגִבְעוֹת וְכָל-עֵשְׂבָם אֹבִישׁ ^{WTT} Isaiah 42:15

וְשָׁמְתִי נְהָרוֹת לְאֵיִם וְאֲנַמִּים אֹבִישׁ:

16 節 わたしは目の見えない者に、
彼の知らない道を歩ませ、
彼らの知らない通り道を行かせる。
彼らの前でやみを光に、
でこぼこの地を平らにする。
これらのことをわたしがして、
彼らを見捨てない。

וְהוֹלַכְתִּי עֲוִרִים בְּדֶרֶךְ לֹא יָדְעוּ בְּנִתְיָבוֹת ^{WTT} Isaiah 42:16

לֹא יָדְעוּ אֲדָרִיכֶם אֲשִׁים מִחֶשֶׁךְ לִפְנֵיהֶם לְאוֹר וּמִעֲקָשִׁים

לְמִישׁוֹר אֱלֹהֵי הַדְּבָרִים עֲשִׂיתֶם וְלֹא עֲזַבְתִּים:

17 節 彫像に拠り頼み、鑄像に、
「あなたがたこそ、私たちの神々」と言う者は、
退けられて、恥を見る。

נִסְגּוּ אַחֲזֹר יִבְשׁוּ בְשֵׁת הַבְּטָחִים בַּפֶּסֶל ^{WTT} Isaiah 42:17

הָאֹמְרִים לְמַסְכָּה אַתֶּם אֱלֹהֵינוּ: ס

時が来れば、神は人の思いを全く超えたわざをお始めになる。<川をかわいた地とし>は、
「川を島々とし」の読み替えであるが(欄外注)、詩的表現の大胆さを残しておくためにも読
み替えない方がよい。16 節の表現も、すでに 29 : 18、30 : 21、40 : 4 にもちいられてきた
ものが総合されていると考えられる。この部分の結論も、偶像礼拝者の拒否である。主の
全能性の証言と、主のしもべによる御旨の遂行は、いつも偶像論と結びついている(44:9
- 20 注解)。

c. 心のかたくななイスラエル(42 : 18-25)

詩調は一転して、心のかたくなままで回心しようとしないう現実のイスラエルへの嘆きの歌となる。

18 節 耳の聞こえない者たちよ、聞け。

目の見えない者たちよ、目をこらして見よ。

הַחֲרָשִׁים שְׁמְעוּ וְהַעֲוִרִים הַבִּיטוּ לְרֵאוֹתַי: ^{WTT} Isaiah 42:18

19 節 わたしのしもべほどの盲目の者が、

だれかほかにいようか。

わたしの送る使者のような耳の聞こえない者が、

ほかにいようか。

わたしに買い取られた者のような盲目の者、

主のしもべのような盲目の者が、

だれかほかにいようか。

מִי עֹוֵר כְּמֹשֶׁלִם וְעֹוֵר כְּעֶבְדֵי יְהוָה כִּי אִם־עֲבָדֵי וְחָרָשׁ כְּמִלְאָכָי אֲשַׁלַּח ^{WTT} Isaiah 42:19

מִי עֹוֵר כְּמֹשֶׁלִם וְעֹוֵר כְּעֶבְדֵי יְהוָה:

イザヤは<耳の聞こえない者たちよ、聞け。目の見えない者たちよ、目をこらして見よ>という皮肉な発言で、イスラエル人の心のかたくなさを責める。19 節では、<盲目の者><耳の聞こえない者><盲目の者><盲目の者>とことばを連ねて、イスラエル人の心のかたくなさを浮き彫りにする。その点では、イザヤが召命を受けた時点から、イスラエル人は少しもよくなっていない(6:9 以下)。<わたしに買い取られた者>は、非常に難解なことばである。☒メッシュラームで、普通名詞としては旧約聖書中ここにしかない。固有名詞としては、エズラ記 8 : 16、10 : 15、29、ネヘミヤ記 3 : 4、6 : 18 などに用いられる。☒メッシュラームは、☒シャーラムの強意受身語幹分詞単数形である。「買い取られる」「報いられる」という意味と、「平和の関係に入れられる」という意味がある。前者の意味にとれば、新改訳のようになり、後者にとれば、「神と平和の関係に入っている者」すなわちイスラエルという意味になる。イスラエル人は、神によって選ばれ、神によって送られ、神と契約を結んだ民であるのに、盲目の人以上の盲目、耳の聞こえない人以上の耳の聞けない人になってしまっているという皮肉の交じった嘆きである。

20 節 あなたは多くのことを見ながら、心に留めず、
耳を開きながら、聞こうとしない。

אַזְנֵי־וְלֹא יִשְׁמָע׃ (רְאִיתָ) [רְאוֹתַי] רַבּוֹת וְלֹא תִשְׁמָר פְּקוּדֹתַי ^{WTT} Isaiah 42:20

אַזְנֵי־וְלֹא יִשְׁמָע׃

21 節 主は、ご自分の義のために、
みおしえを広め、
これを輝かすことを望まれた。

יְהוָה חָפֵץ לְמַעַן צְדָקוֹ יַגְדִּיל תּוֹרָה וַיֹּאדְוֶר׃ ^{WTT} Isaiah 42:21

22 節 これは、かすめ奪われ、
略奪された民のことであって、
若い男たちはみな、わなにかかり、
獄屋に閉じ込められた。
彼らはかすめ奪われたが、助け出す者もなく、
奪い取られても、それを返せという者もない。

וְהוּא עִם-בְּזוּז וְשֹׁסוּי הָפַח בַּחֲוָרִים כְּלָם ^{WTT} Isaiah 42:22

וּבְבִתֵּי כְלָאִים הֶחֱבֵאוּ הָיוּ לְבָז וְאֵין מַצִּיל מִשָּׁפָה

וְאֵין-אֹמֵר הַשֵּׁב׃

23 節 あなたがたのうち、だれが、これに耳を傾け、
だれが後々のために注意して聞くだろうか。

מִי בְכֶם יִאֲזִין זֹאת יִקְשֹׁב וְיִשְׁמָע לְאַחֲזֹר׃ ^{WTT} Isaiah 42:23

24 節 だれが、ヤコブを、奪い取る者に渡し、
イスラエルを、かすめ奪う者に渡したのか。
それは主ではないか。
この方に、私たちは罪を犯し、
主の道に歩むことを望まず、

そのおしえに聞き従わなかった。

מִי־נָתַן (לְמִשְׁסָה) יַעֲקֹב וַיִּשְׂרָאֵל WTT Isaiah 42:24

לְבַזְזִים הָלֹא יִהְיֶה זֶה חֲטָאֵנוּ לוֹ וְלֹא־אֲבוֹ בְּדַרְכֵי הַלֹּךְ

וְלֹא שָׁמְעוּ בְּתוֹרָתוֹ:

25 節 そこで主は、燃える怒りをこれに注ぎ、
激しい戦いをこれに向けた。
それがあたりを焼き尽くしても、彼は悟らず、
自分に燃えついても、心に留めなかった。

וַיִּשְׂפֹךְ עָלָיו חֲמָה אֲפוֹ וַעֲזָז מִלְחָמָה WTT Isaiah 42:25

וַתִּלְהַטְהוּ מִסָּבִיב וְלֹא יָדַע וַתִּבְעַר־בוֹ וְלֹא־יִשְׂיִים עַל־לֵב: פ

イスラエルの民が、栄光に輝く神の選ばれたしもべという特権にあずかりながら、みことばに耳を傾けず、不信の罪に陥るばかりなので、サマリヤは陥落し、イスラエルは、神のさばきにより、捕囚の地に連れて行かれた。21 節の<こうして>は原文にはない。入れない方が原文の意味を正しく伝えることができる。22 節の<これ>は、21 節の<これ>と違い、この民すなわちイスラエルを指している。23 節の<これ>は、続く 2 節の質問と答えを指している。